

宇宙電波懇談会 2024年度 総会

- 日時：2025年3月24日(月) 12:00~12:55
- 議題
 1. 内規関連の報告（2分、田村@運営委）
 2. 運営委員会の開催状況（3分、田村@運営委）
 3. 日本学術会議関連報告（5分+5分、藤澤）
 4. URSI 関連報告（5分、久野）
 5. 将来計画検討ワーキンググループの組織について（15+5分、田村@運営委）
 6. 事務局報告（5分、三澤@事務局）
 7. 国立天文台プロジェクト等の延長について（5分、斎藤）
 8. その他、各種報告・意見交換

0. 運営委員会・事務局構成員の紹介（再掲）



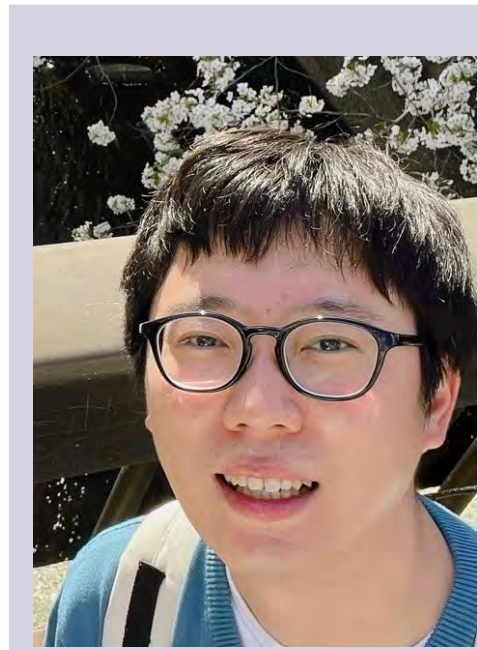
田村 陽一（委員長）
名古屋大学大学院理学研究科

前任の藤沢前委員長からバトンを託されました。専門は銀河形成、観測装置。天文学の発展の一助となるよう精一杯努めます。



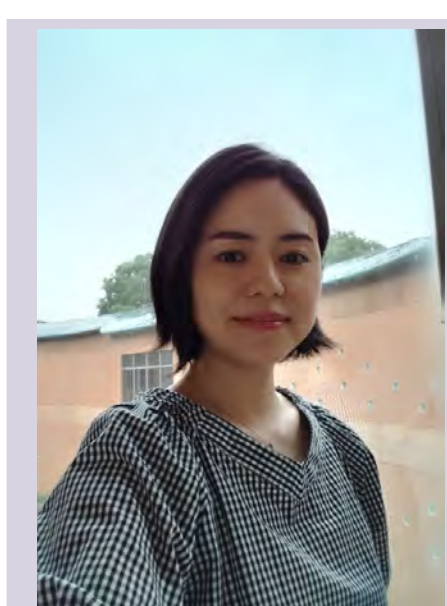
赤堀 卓也（副委員長）
国立天文台水沢VLBI観測所

第14/15期から2回目となります。自由闊達な意見交換ができるよう、誠心誠意努めてまいります。



泉 拓磨 宇電懇シンポ
国立天文台アルマプロジェクト/総合研究大学院大学

今期から初めて運営委員を務めます。専門はAGNです。若手も参加・貢献しやすい宇電懇を作っていきたいと思います。



江草 芙実 宇電懇ニュース
東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター

第16期より引き続き、運営委員を務めます。専門はALMAなどを使った近傍銀河の研究です。



島尻 芳人
九州共立大学経済学部地域創造学科

今期から運営委員を務めさせていただきます。日本の電波天文学の発展に少しでも貢献できるよう努めます。



高橋 慶太郎 宇電懇ニュース
熊本大学大学院先端科学研究部

今期で2期目になります。引き続き、宇電懇ニュースなどで楽しいコミュニティづくりに励んでいきたいと思います。専門は宇宙論、重力波、宇宙磁場などです。

- **事務局**：東北大学大学院理学研究科
- **三澤 浩昭 (事務局長)** 庶務面の円滑な進行支援に努めます。専門は機器 開発・観測に基づく太陽・惑星プラズマ研究です (所属:地球物理)。
- **土屋 史紀** 宇電懇Webページや投票フォームを担当します。 分野は太陽系科学・惑星科学で、専門は電波波長を含む望遠鏡や惑星探査機を用いた太陽系天体の 磁気圏・大気研究です。望遠鏡繋がり、天文学分野の皆さんと研究でも共同研究ができればと思っています。
- **村山 卓** メーリングリストと会員情報の管理を担当いたします。重要な情報共有ツールであるryunetの安定運用に努めてまいります。専門は銀河および活動銀河核の観測的研究です。

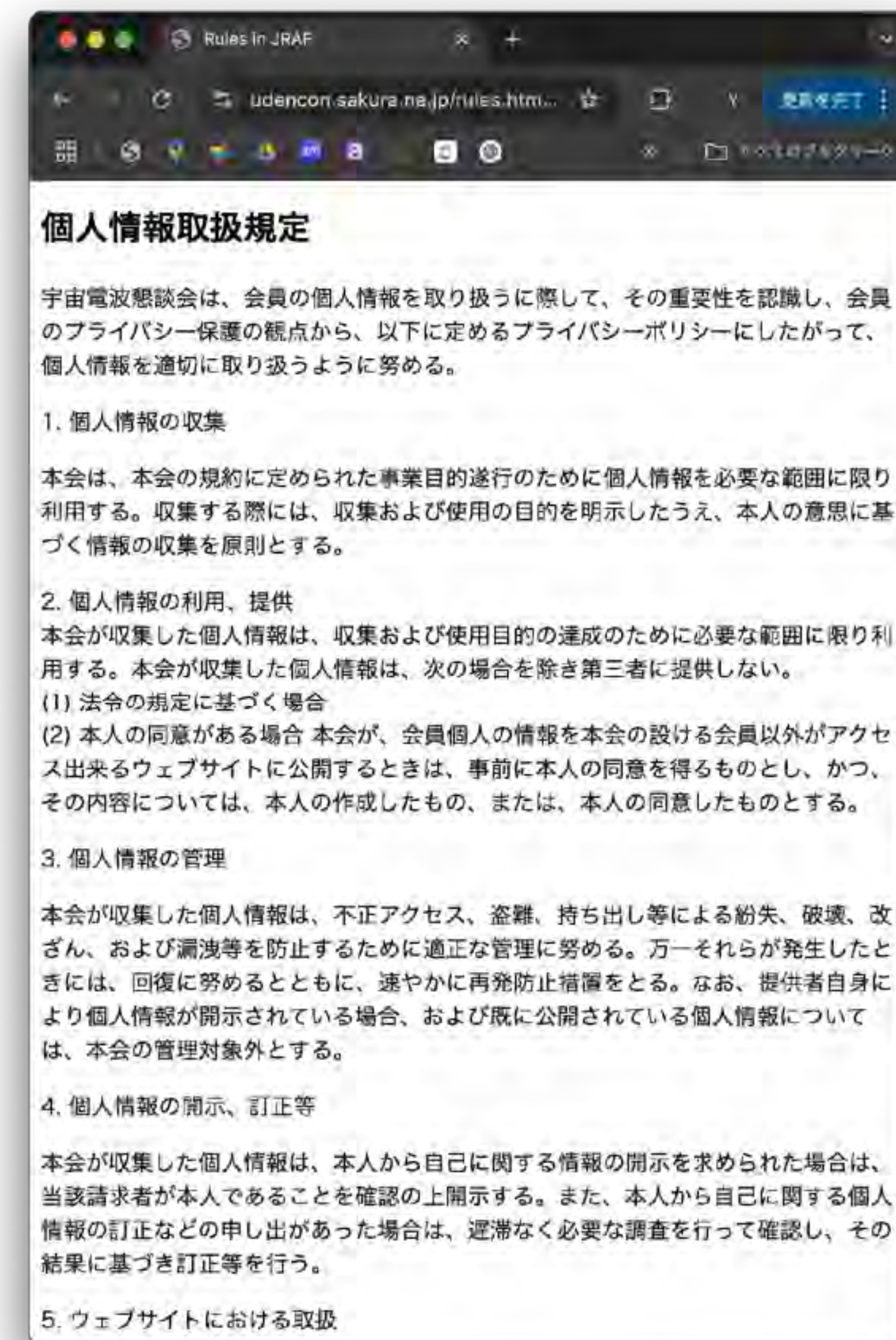
1. 内規関連報告

注：内規の改訂は総会における審議事項ですが、今回は「報告」のみです

<https://udencon.sakura.ne.jp/rules.html#PersonalInformationHandling>

- 個人情報取扱指針の掲載報告（事務局報告済み@集会20204秋）
- 宇電懇会員の行動規範について
 - 運営委員会で、宇電懇関連事業（例：シンポ、委員会等）における会員の「行動規範」を定めることの提案があった。
 - 運営委員会で検討した結果、**宇電懇として特別な行動規範は決めず、日本天文学会の行動規範(*)に準じるということ**を運営委員の申し合わせとして決め、宇電懇事業で運用することとした。
 - 宇電懇独自の行動規範が必要であるという声があれば、次回総会以降で内規を定める検討を行うこととした。（例：ASJ行動規範には通報についての規定がないため、宇電懇では適用時にその点も加えるべき、等）

*天文学会行動規範 <https://www.asj.or.jp/jp/about/code-of-conduct/>



2. 運営委員会の開催状況 (1/4)

- **第4回** (2024/10/11)
 - **宇電懇シンポジウムの計画**：国立天文台すばる棟大セミナー室の空き状況と他の研究集会や行事の都合を考慮して検討し、日程を1月8~10日と決定した。プログラムについて意見交換を行った。
 - **宇電懇ニュース**：次号の内容を議論した。将来WGの活動報告、ALMA Development Workshop報告、JCMT/EAOについて、研究室紹介 (岐阜大学) などが提案された。
- **第5回** (2024/11/27)
 - **宇電懇シンポジウムの企画・準備**：準備状況が確認された。会場、ウェブサイト、プログラム編成、ポスター賞、討議事項などを議論した。
 - **宇電懇ニュース**：特にJCMT/EAOの記事について議論を行った。

2. 運営委員会の開催状況 (2/4)

- **第6回** (2024/12/13)
 - **宇電懇シンポジウムの企画・準備**：江草委員より暫定プログラムについて確認があり議論した。登録者、懇親会リマインダについて確認された。赤堀副委員長より若手講演者への通知、講演の言語などについて確認があり議論した。泉委員よりシンポジウムの旅費に関して確認があり議論した。
 - **宇電懇ニュース**：特にJCMT/EAOの記事について継続議論を行った。

2. 運営委員会の開催状況 (3/4)

- **第7回** (2025/01/27)

- **宇電懇シンポジウム開催の総括**：シンポ開催 (2025/1/8-10) を受け、運営委員会・事務局 (LOC) の作業のまとめを行った。赤堀副委員長より会計報告を行なった。繰越金は水沢三鷹オフィスで保管することが了承された。田村委員長よりNAOJ研究集会助成金の報告書案が説明された。田村委員長より講演資料を回収をするという提案があり、高橋委員が担当することです了承された。 ↪詳細は、宇電懇ニュース次号で報告予定
- **総会の準備**：宇電懇関連事業（シンポジウム開催・各種委員会等）のもとでの行動規範を定めることの議論を行い、日本天文学会の行動規範に準じるということを運営委員の申し合わせとして決定した。
- **宇電懇ニュース**：江草委員より、宇電懇シンポのポスター賞受賞学生から研究紹介を募る説明があった。島尻委員より、JCMT関連の記事の報告があった。また、関連する国立天文台小委員会 (ALMA JSAC) と要請があれば共有することが承認された。
- **将来計画検討ワーキンググループ (WG) の諮問事項・再組織**：田村委員長よりWGへの諮問事項や委員構成・選定方法について提案があり、提案に関して議論がなされた。
- **その他**：田村委員長より、学術会議天宇分科会等の報告があった。
↪詳細は、このあとの天宇分科会報告（藤澤さん）

2. 運営委員会の開催状況 (4/4)

- **第8回** (2025/02/14)
 - **総会の準備**：田村委員長より総会開催の発議があり、開催日時を3/24昼休みと決定し、オンライン開催することとした。議題を決定した。
 - **将来計画検討ワーキンググループの諮問事項・再組織**：WGへの諮問事項、及び委員構成・選定方法に関する継続議論を行なった。WG再組織のための意向投票方法を決定した。

3. 日本学術会議関連報告

藤沢健太（山口大学）

宇宙電波懇談会総会（2025年3月24日）

（日本天文学会代議員総会・会員全体集会（2025年3月18日）資料）

26期日本学術会議・分科会報告

（1）IAU分科会ならびに天文学・宇宙物理学分科会

（2）日本学術会議の在り方に関する状況

(1) IAU分科会ならびに天文学・宇宙物理学分科会

2023年10月より第26期がスタート

会員・連携会員：<https://www.scj.go.jp/ja/scj/member/index.html>

・物理学委員会の下にIAU分科会ならびに天文学・宇宙物理学分科会が設置・承認。

<第1回分科会> 2023年12月12日開催（遠隔）

・幹事団（IAU:渡部委員長、生田副委員長 天宇：奥村委員長、浅井副委員長 両分科会：藤澤幹事）

と新たな連携会員3名を承認。

<第2回分科会> 2024年1月29日開催（遠隔）

・天文学・宇宙物理学分科会

（1）機関報告（宇宙科学研究所、国立天文台、宇宙線研究所）（2）「未来の学術振興構想」について

・IAU分科会

（1）会員推薦（2）IAU活動報告（APRIM2023、NAEC日本チーム、IAU総会（南アフリカ）2024）

● 2024年3月19日（火）12：00－13：00 オンライン報告会を実施

<第3回分科会> 2024年7月31日開催（遠隔）

・天文学・宇宙物理学分科会

（1）幹事の追加選出について（長尾幹事）（2）機関報告（宇宙科学研究所、KavriIPMU、国立天文台）

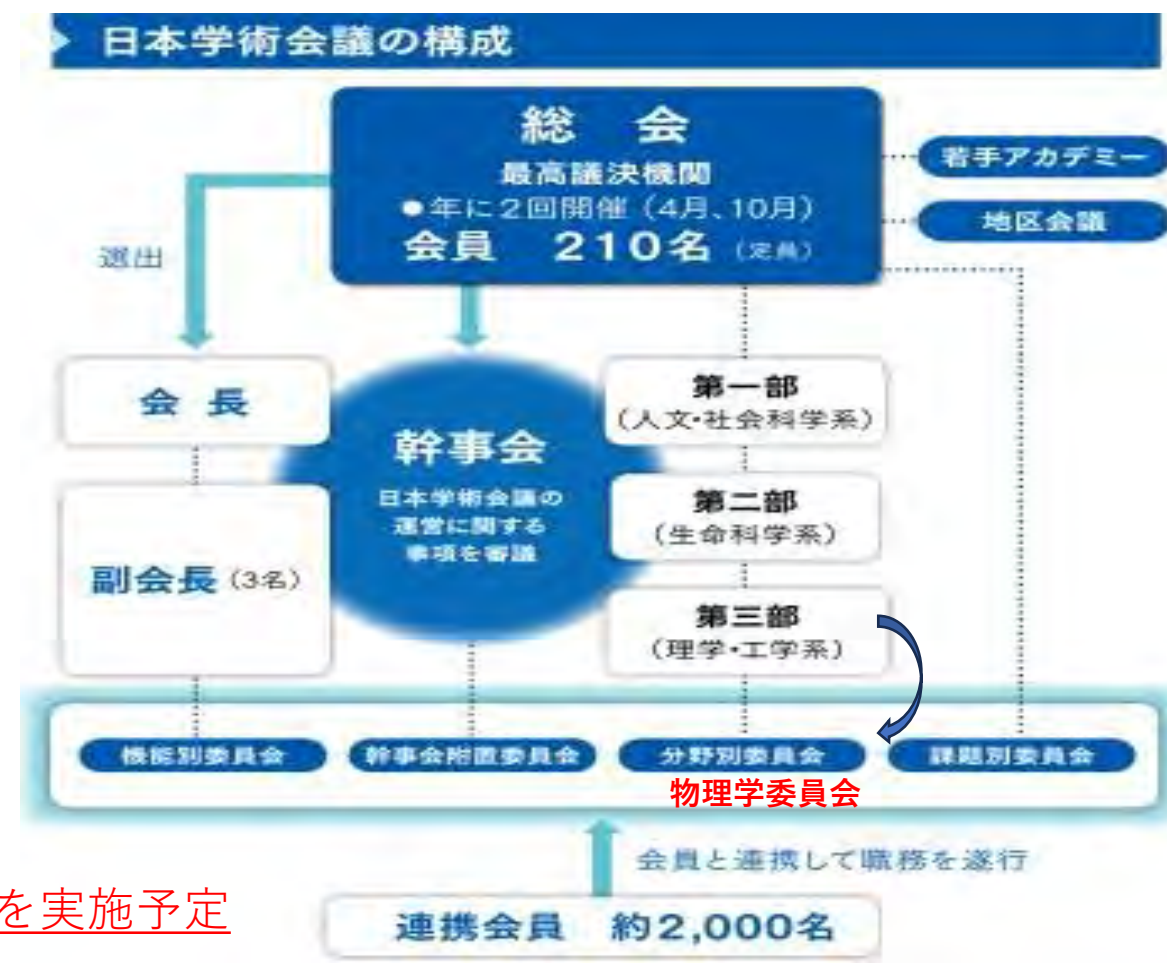
（3）学術会議・物理学委員会報告（4）将来計画の検討について

・IAU分科会

（1）日本のNOCについて（2）IAU総会について（3）その他

<第4回分科会> 2025年1月20日開催（遠隔）

● 2025年3月27日（木）12：00－13：00 オンライン報告会を実施予定





(1)ー1 IAU分科会 報告

■ IAU分科会 2025年 1月20日(水) 第4回

➤ (1) 審議事項: 会員選考について

- IAU 正会員、ジュニア会員について正会員2名、ジュニア会員1名を推薦することについて審議し、承認された。今後、IAUで審査され5月頃に結果が知らされる予定。
- なお、前年に比べて応募者が激減したことについて議論した。

➤ (2) 2024年8月のIAU総会報告

- ・ 2024年8月6日～15日に南アフリカのケープタウンで開催されたIAU総会について報告。

➤ (3) IAU関連活動報告(富田)

- NAEC(National Astronomy Education Coordinator)の活動報告

➤ (4) その他

- 以前から課題となっている将来のIAU総会の日本誘致について、意見交換を行った。

(1) - 2 天文学・宇宙物理学分科会 報告

●第4回 2025年1月20日(水)

- 1) **機関報告** 国立天文台、宇宙科学研究所、宇宙線研究所、Kavli IPMU
- 2) **物理学委員会報告** 2025年11月に物理学委員会で分野横断的なシンポジウムを開催予定。
「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」にて物理学委員会がプレゼンテーション。
- 3) **広報活動の報告** 学術会議HPの他に、[国立天文台と日本天文学会に協力いただき、サイトを利用。](#)
- 4) **26期天文学・宇宙物理学分科会における将来計画の検討について**

<未来の学術振興構想>

ー25期の提言は2023年9月に発出されたが、**26期中に改訂を行う方向**で科学者委員会学術振興分科会により検討が進んでいる。**既存提案の改訂と新規提案の受付**となる予定。**2025年4月頃を目処に改訂公募プロセスを開始することを目指している。**

<26期分科会として将来計画をどう推進していくか>

一個々の将来計画はまず**26期未来の学術振興構想**(上記)にご応募いただきたい。応募のための説明会等を行う予定。

ー各コミュニティや機関で様々な議論がある中で、分科会として独自に、サイエンスの他、コミュニティからの支持、機関間の連携、国際協力、人材育成などの要素も含めて、**天文学・宇宙物理学を俯瞰した観点で「分野全体の発展に資する将来計画」をどのように議論するか検討中。**

(2) 日本学術会議の在り方に関する状況

- ・「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai.html>

— 2023/8/29, 9/6, 9/25 (25期), 11/2, 11/9, 11/20, 11/30, 12/13, 12/18, 12/21 (26期)

— 中間報告 (12/21)

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/chukanhokoku.pdf>

- ・「日本学術会議の法人化に向けて」 (12/22)

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/20231222houshin.html>

- ・日本学術会議の対応

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-20.html>

— 会長メッセージ 2023/8/29, 9/8, 9/29 (25期), 11/10, 11/20, 12/22 (26期)

— 臨時総会 声明 2023/12/9

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-26-s190-s.pdf>

* **中間報告のポイント**：会員選考、活動の幅の拡大、財政基盤の充実、事務局機能の強化、**ガバナンスの強化**

— 総会 声明 2024/4/23

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-26-s191-s.pdf>

「政府決定「日本学術会議の法人化に向けて（令和5年12月22日）」に対する懸念について～国民と世界に貢献するナショナル・アカデミーとして～」

* 満たされるべき点

- ・改革は学術会議のよりよい役割発揮につながるべき（財政基盤）。
- ・政府からの**独立性・自立性を担保した組織・制度**。高い透明性を堅持しつつ過重でない**ガバナンス制度**。
- ・コ・オプレーション及び会員による会長選出。

(2) 日本学術会議の在り方に関する状況 (2024年後半)

・「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai.html>

ー2024/6/7, 7/29, 11/29, 12/13, 12/18

組織・制度ワーキング・グループ：

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/soshikiwg.html>

ー2024/4/15, 5/8, 5/22, 5/27, 6/24, 7/11, 7/22, 10/16, 11/5, 12/5

会員選考等ワーキング・グループ：

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/kaiinwg.html>

ー2024/4/26, 5/17, 5/31, 6/17, 7/19, 10/11, 11/11, 12/2

ー最終報告書公表 (12/20)

「世界最高のナショナルアカデミーを目指して」

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/hokoku.pdf>

・日本学術会議の対応

ー7/11組織・制度WG資料1「日本学術会議のミッションと現在の法人化案への疑問」

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/soshikiwg/20240711/shiryo1.pdf>

ー7/29有識者懇談会資料1「第26期日本学術会議アクションプランの取組状況について」

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/20240729/shiryo1.pdf>

ー7/29有識者懇談会当日配布資料「法人化をめぐる議論に対する日本学術会議の懸念」

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/20240729/haihushiryo.pdf>

「近視眼的な利害に左右されない独立した自由な学術の営みを代表するカデミーの活動」を阻害する項目

1. 大臣任命の監事の設置を法定すること
2. 大臣任命の評価委員会の設置を法定すること
3. 『中期目標・中期計画』を法定すること
4. 次期以降の会員の選考に特別な方法を導入すること
5. 選考助言委員会の設置を法定すること

（３）日本学術会議の在り方に関する状況（2024年後半：続き）

・日本学術会議の対応

臨時総会 2024/12/22

<https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/sokai/siryo193.html>

一日本学術会議会長談話

「有識者懇談会最終報告及び日本学術会議第193回総会を受けて～より良い役割発揮のための改革に向けて～」

<https://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/20241222.pdf>

“日本学術会議が説明してきた懸念点の一部については、議論の過程でその趣旨が明らかにされ、お互いの理解が進み、最終報告に記載された。一方、これまでの主張が反映されていない点については、日本学術会議の意見として最終報告にも明記いただいたところであり、今後、法制化の過程で更なる検討をする余地があるものとする。また、法制化に向けて具体的な検討が必要となる論点も残されている。

日本学術会議は改革の当事者として、具体的な法制化に向けて責任をもって政府と協議していくとともに、改革の実行に当たっては、会員間で議論を尽くしつつ、社会との対話をこれまで以上に進めていく。”

一日本学術会議会長談話

「日本学術会議の法人化に関する法案の検討状況について」

<https://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/20250227.pdf>

「日本学術会議法案について」

<https://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/20250307.pdf>

4. URSI 関連報告

URSI (国際電波科学連合) 報告

久野成夫 (筑波大学)

- 第26期URSI J小委員会 (電波天文学)
 - 2024年5月 日本学術会議幹事会にて設置承認

委員: 赤堀卓也、泉 拓磨、江草芙実、久野成夫、
島尻芳人、新永浩子、高橋慶太郎、田村陽一

URSI関係の国際会議の予定

- 2025 URSI Asia-Pacific Radio Science Conference

2025年8月17日ー22日
オーストラリア、シドニー



- XXXVIth URSI General Assembly and Scientific Symposium 2026

2026年8月15日ー22日
ポーランド、クラクフ



- 2028年URSIアジア・太平洋電波科学会議(URSI AP-RASC 2028)の日本招致(富山)

URSI国内小委員会

Commission

A : Electromagnetic Metrology

B : Fields and Waves, Electromagnetic Theory and Applications

C : Radiocommunication Systems and Signal Processing

D : Electronics and Photonics

E : Electromagnetic Environment and Interference

F : Wave Propagation and Remote Sensing

G : Ionospheric Radio and Propagation

H : Waves in Plasmas

J : Radio Astronomy

K : Electromagnetics in Biology and Medicine

新たな小委員会の設置提案

「電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会」

- 未来の学術振興構想「学術の中長期研究戦略」に提案し採択された「SDGsの達成に資する電波資源の科学・商業・公共利用におけるレギュラリーサイエンスに基づくハーモナイゼーション」の研究計画を推進する体制

※レギュラリーサイエンス:「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学」

(第4次科学技術基本計画平成23年8月19日閣議決定)



“未来の学術振興構想2023”より

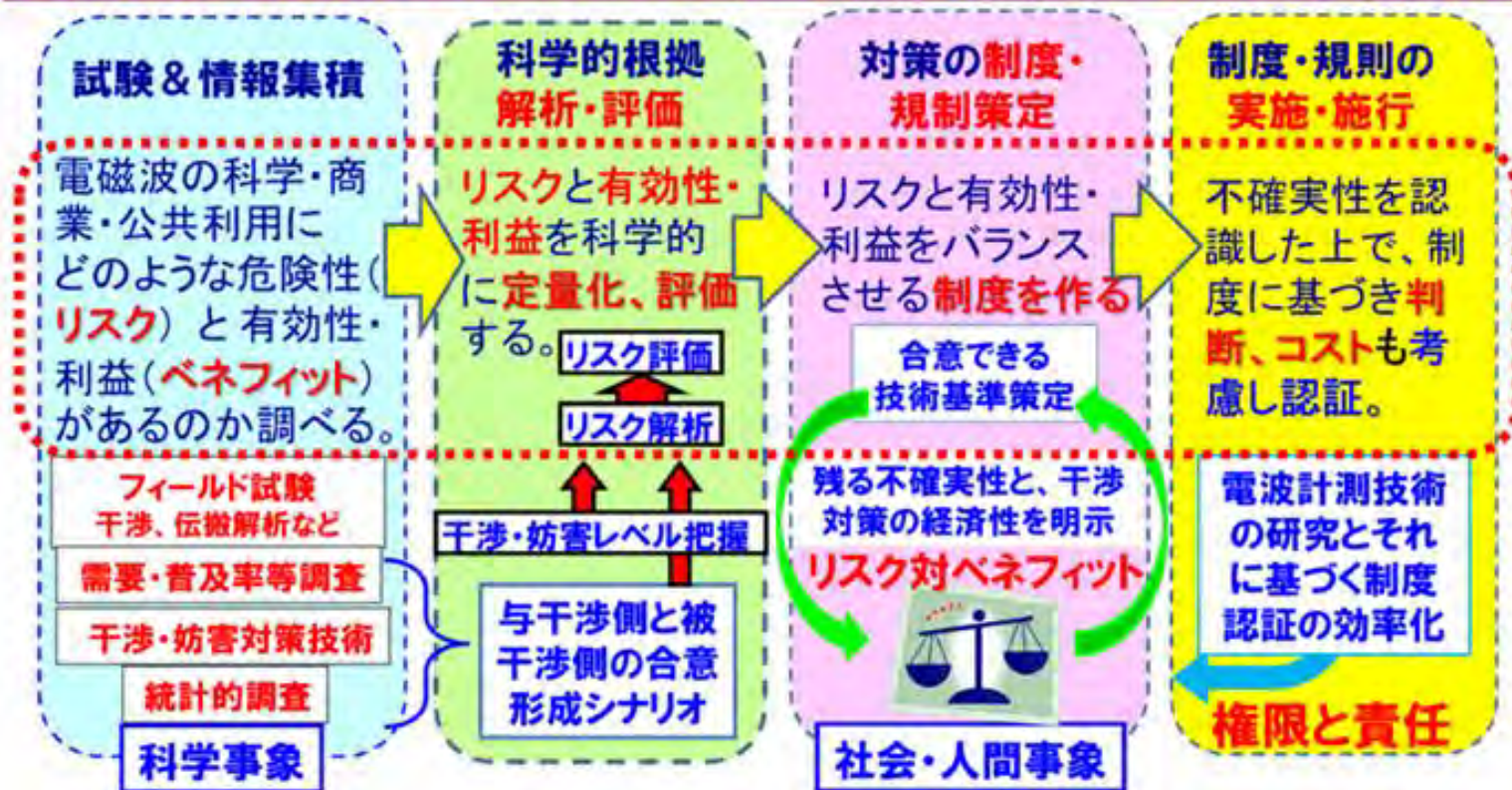
• 新たな小委員会の設置提案

「電波資源利用ハーモナイゼーション小委員会」

電波資源の科学・商業・公共利用のあらゆるステークホルダーの
合意形成のためのレギュラトリーサイエンス

Stake Holders: 電波天文等の科学利用・携帯電話等の商業的利用・医療防災等の公共利用の利用者、提供者、研究者、省庁、自治体、企業他の人、組織等全般

電波の利用者、天文台やメーカ等を保護し、科学技術の進歩・ビジネス・公共サービスの両立



5. 将来計画検討ワーキンググループの組織について

- **背景**

- **委員構成**：前回の組織から4-5年が経過し、WGメンバーのとりまく状況が変わってきた。若手が活躍している。宇電懇会員にこだわらず将来の電波天文に資する方々を巻き込む必要がある。
- **あらたな / 具体的なチャージ**：（1）国立天文台サイエンスロードマップ策定と並行した将来計画の検討、（2）未来の学術振興構想 2026（仮）

- **今後の進め方**

- 3月~4月：意向投票（後述）ののちに運営委員会で決定
- 3月31日WG：将来WGで申し送り事項のまとめ
- 4~5月：WG再組織
- 意向投票は ready の状態です。今週には開始したく考えています。

WG 諮問事項 (1/2)

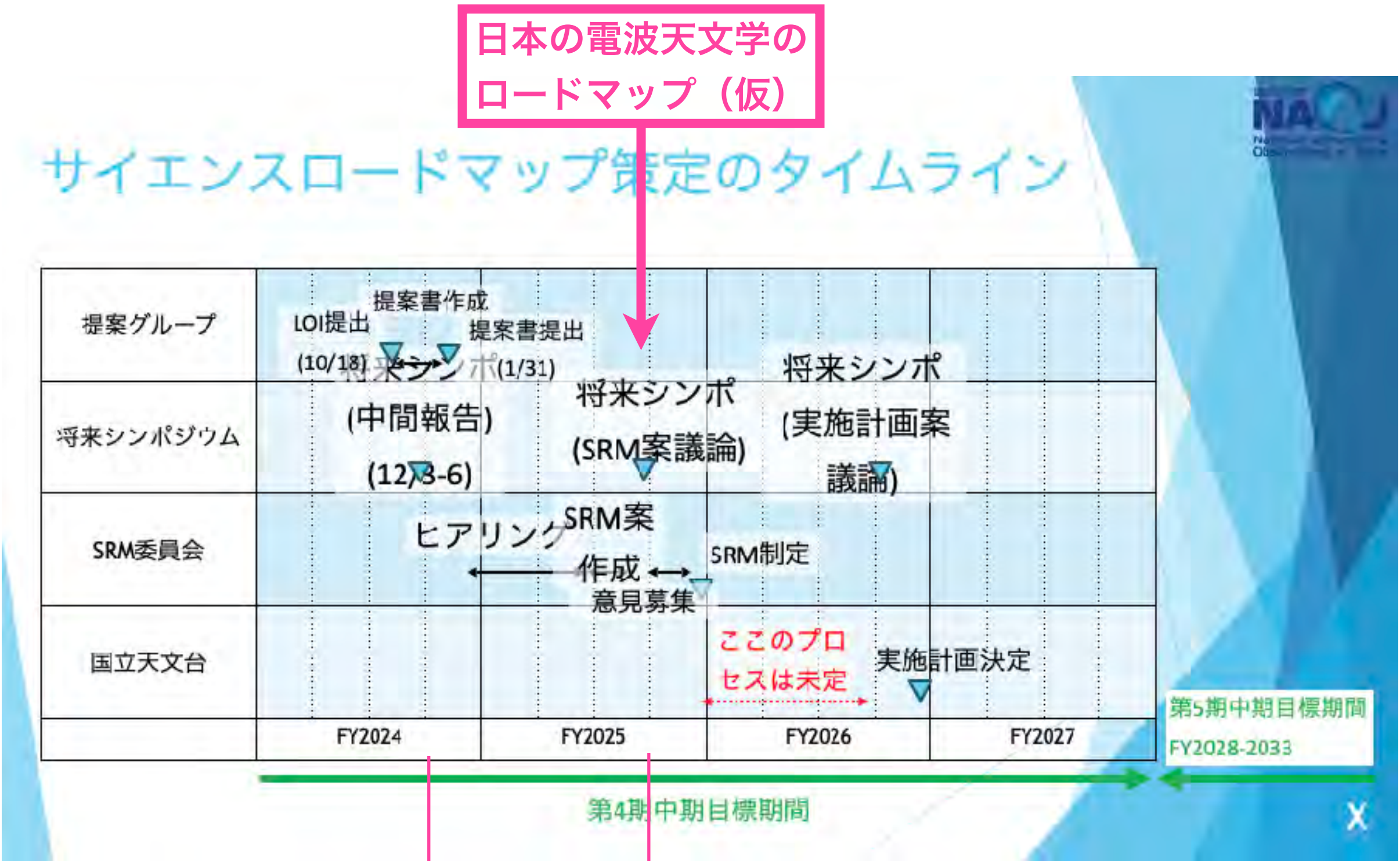
- 諮問事項：「**日本の電波天文ロードマップの策定**」
 - **国立天文台サイエンスロードマップ** (NAOJ SRM)：何を（現プロ＋将来プロ？何年まで？→2035までの現観測所と将来計画）、どこまで（優先度・順位、実現可能な時間・予算・人？→SWOT分析、優先度・順位付け、時間・予算・人的体制）、いつまでに（FY2025Q3？→NAOJ SRMへのインプット）諮問するか？
 - **未来の学術振興構想2026**：学術会議天宇分科会による募集。2023掲載計画の更新と新規提案の受付も。2025年春公募開始。→地上計画が中心の宇電懇では、NAOJ SRMを完遂することで自然に決まるだろう。
- **ポイント**
 - 予算・人を時系列的に実施機関毎に積み上げて一覧を作り、成立性の是非を俯瞰。
 - 平等とすると共倒れの恐れあり。計画間のギャップを橋渡しするとともに、妥協点をさぐる。実施機関毎の順位付けの意義や是非を検討 (例：現在と10年後とで順位は異なる。時間軸で重要度を変える、実施機関毎、規模毎、等)。
 - 参考：光赤天連の検討 (http://gopira.jp/sym2024/file/gopira_roadmap_20240919.pdf)。規模の大きさ・重要度で仕分け、比較的小規模なグループのものは推薦しないとした。

WG 諮問事項 (2/2)

- 「日本の電波天文ロードマップの策定」
 - ロードマップの目的及びスコープの設定
 - ロードマップの構成：宇電懇の推薦なしには成立しない大型計画 vs. それ以外、国研でのみ実施が可能な計画 vs. 大学で実施が可能な計画、等
 - ロードマップの作成：頻度、構成員 (**外部委員**・オブザーバの指名)
 - ロードマップの公表の方法（ただし、公表自体は運営委員会が責任を持つ？）
 - 公表内容の機微を考慮・判断するため、WGで公表の方法を定める

NAOJ SRMへ向けたスケジュール

- FY2025 Q3 のSRM案までにインプット。
- スケジュール
 - 1月：方針決定、現WGに相談
 - 3月：WGメンバー選定のための意向投票
 - 3月：運営委で議論、現WGに申し送り
事項依頼
 - 4~5月：依頼、第1回会合



方針決定
現WGに相談

意向投票

WG案
申送り
総会

WG組織
WG招集

2025/1

2025/4

2025/7

2025/10

2025/12

WG 再組織

- **構成**

- **方針1**：使命感・危機感をもって行動（発言、調整、執筆）してくださる方に依頼する。
ただし、分野等の様々なバランスは考えるものとする。
- **方針2**：宇電懇会員に限らない。（外部委員の登用）
- **方針3**：専門家や計画メンバーをヒアリングに招聘できるものとする。各計画や国立天文台のコミットも必要。計画メンバーもWGメンバーとなることを妨げないが (例：方針1として選ばれた方が計画メンバーである等)、利益相反に配慮。
- 宇電懇運営(副)委員長は正メンバーにならない。（オブザーバ / ex officio）
- **人数**：宇電懇会員現在と同規模（~10名）。外部委員（~5-10名）、オブザーバ (NAOJ電波分野執行部 + SRM委員 + 隣接分野 + 学術会議会員、等)。
- **任期**：2年。期間延長は妨げないが最大2期とする。

WG再組織のための意向投票の方法

- **投票者**：宇電懇会員（投票開始時点）
- **被投票者**：2025年度時点で(特任)准教授相当以上（退職者は除く）を「候補者」とする。
→異動等がある方は、運営委員会までお知らせ下さい。
- **方法**：
 - インターネットによる意向投票
 - WG委員 (会員)：候補者リストから最大5名記名 + 外部委員最大3名記名。
- **ポイント**：
 - 電波 天文学の将来に本気で誠心誠意取り組んでいただけると見込まれる方への投票をお願いいたします。
 - 計画への投票ではありません。
 - 得票数を参考に、バランスを考慮し、最終的に運営委員会で決定します。講師、助教に関しても、WGに入っていただく可能性が大いにあります。

参考

参考1: 現在のWGメンバー

- 赤堀卓也 (NAOJ), 泉 拓磨 (NAOJ), 江草芙実 (東大 / 副議長), 大西利和 (大阪公立大 / 議長), 久野成夫 (筑波大), 河野孝太郎 (東大), 小嶋崇文 (NAOJ), 坂井南美 (理研), 高橋慶太郎 (熊本大), 田村陽一 (名大), 新沼浩太郎 (山口大), 秦 和弘 (名市大), 藤沢健太 (山口大), 百瀬宗武 (茨城大), 渡邊祥正 (芝浦工業大) + 石井峻 (NAOJ)
- 現在のメンバーは、2021年度に組織された。目的はマスタープラン2023選定のため。運営委員長・副委員長（当時の岡氏・高桑氏）は指名する側のため、WGに入らなかった。

参考2: 2021/3/22 宇電懇運営委員会（臨時）

- 将来計画WGのメンバーの選定方法 (河野, 高桑, 岡)
 - 候補者名簿の作成：
 - **素案作成**：宇電懇運営委員が名簿を作成する。LOIの締め切りが4月末なので、名簿を完成させるのはこの後とする。一方、作業はできるだけ早くから取り掛かる。まず、宇電懇事務局の方で、准教授以上（特任を含む）の宇電懇のメンバーの方々の名簿を作成する。この際、事務局の資金を使って学生アルバイトを雇い、名簿を作ってもらうことも検討する。
 - **決定**：これをたたき台として、宇電懇運営委員の直接の会合で、候補者名簿を最終決定する。
 - **公開**：公開に際し、特に本人の承諾を得る必要はないものとする。一方、名簿の公開の後の選挙において選ばれた際には、本人はWGメンバーになることを断る権利は保つ。
 - **利害関係・オブザーバ**：プロジェクトの構成員のWG参加を可とする。ただし、プロジェクトPIは除くことを前提とする。宇電懇運営委員もWGのメンバーに入ることも可能とする。宇電懇運営委員長、副委員長はオブザーバとしてWGに参加する。
 - **メンバー決定**：プロジェクトの順位付けの最終決定権は、宇電懇運営委員会にある。WGの結論を宇電懇運営委員が覆すことも原理的には可能とする。

参考3: 2021/3/26 宇電懇運営委員会（臨時）

- 将来計画検討WGメンバー選定方法 (赤堀, 岡, 藤澤, 百瀬, 今井@オブザーバ)
 - 宇宙電波懇談会会員リストから作成
 - WGメンバー選定意向投票ではそれ以外の方へも投票できる。
 - 特任准教授以上で運営委員会で選定する。
 - 理由1：ある程度広い見識があることが資格として求められる。
 - 理由2：リストを改訂する際に必要に応じて助教・特任助教などの若手も加えて行くことができる。
 - 若手を入れる。立候補も受ける。
 - リスト候補を増やすよりも減らす方が心理的負担が大きい。最終的には運営委員会メンバーで主観的にリストを作成していくしかないだろう。
- 期限：4/20までに作成する。
- オブザーバー
 - プロジェクトP.I.や天文台執行部の誰かに時々参加してもらう方向で検討する。
 - Opened /closed sessions をうまく使い分ければ良いだろう。
 - 運営委員長・副委員長も参加する。WG議長が決まるまでWGを主導する。
- WG議長：WGメンバーで決めてもらう。

6. 事務局報告（対象期間：2024.10～2025.3）

事務局：三澤浩昭(総務)、村山 卓(会員関係)、土屋史紀(web関係)（東北大・理）

- **会員管理:** 入退会、登録情報変更、メール不達への対応 等
 - ・ 3月上旬に会員全員に情報更新のメール依頼を実施。

※ 会員数等詳細は次頁

- **宇電懇web対応:** 各種更新・アナウンス 等
 - ・ 内規：「個人情報取り扱い規定」の掲示
URL: <https://udencon.sakura.ne.jp/rules.html#PersonalInformationHandling>

※ 宇電懇ニュース、宇電懇総会・集会の議事録掲載 ➡ 運営委員会に対応

- **予算関係**

- ・ 宇電懇シンポ支出：茶菓 15,013円、懇親会補助 18,996円
- ・ 宇電懇シンポ収入：ご芳志 26,000円
- ・ 残額 61,082円 （年度当初 69,091円）

●会員の動向（2024/9/25 以降）

・ 会員数：2025.3.20時点	373 名	
2024.9.25以降入会	13 名	
2024.9.25以降退会	13 名	
うち強制退会	2 名	（退職や卒業を伴うメール不達者）
登録情報変更手続き	74 名	

※皆様へのお願い：情報変更時は速やかにご連絡下さい。

大学等職員の方は周囲の学生の方へのお声掛けもお願いいたします。

#入会・変更届

- ・ 加入希望者氏名(読み仮名付。旧姓使用など通称でも可)
- ・ 連絡先住所（都道府県から。郵便番号も）
- ・ 所属機関(空白可)
- ・ 連絡先電子メールアドレス

※フォーマット(excel) を使用して頂けると手続きがスムーズです。

➔ 宇電懇HP「入会退会変更手続き」をご参照下さい：<https://udencon.sakura.ne.jp/introduction.html>

※会費・入会金は無料です。

7. 国立天文台プロジェクト等の延長について

齋藤正雄（国立天文台）

2025.3 で一旦終了する予定であった

- ・ 水沢、野辺山、ASTE、JVN
- ・ SKA1 promotion group, ngVLA study group

は 2028.3まで 延長となった。

各プロジェクトの終了期日を含むScientific Goals and Missionは下記で見ることができる。

[研究者の方向け | 国立天文台\(NAOJ\)](#)